【1 日目】部活動派遣費問題を考える
地域円卓会議 in 八重山

島の子どもたちの活躍が地域を元気にする。
派遣費に関わる課題をみんなで考える。

実施報告書

日　　時：　2021 年 12 月 14 日（火）18:30-21:10（受付開始 18：00～）
場　　所：　大濱信泉記念館研修室（石垣市登野城 2-70）
共　　催：　公益財団法人みらいファンド沖縄、株式会社ハブクリエイト
協　　力：　NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】【1 日目】部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 in 八重山

■日　　時：2021 年 12 月 14 日（火）18:30-21:10
■場　　所： 大濱信泉記念館研修室
■着席者数：7 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：7 名（行政、スポーツクラブ、教育機関等）
■共　　催：公益財団法人みらいファンド沖縄
　　株式会社ハブクリエイト
■協　　力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供　**喜納 正雄**（株式会社ハブクリエイト 代表取締役社長）

島の子どもたちの活躍が地域を元気にする。
派遣費に関わる課題をみんなで考える。

公益財団法人みらいファンド沖縄と株式会社ハブクリエイトでは、「沖縄・離島の子ども派遣基金」と称した、部活動派遣旅費に対する助成事業を行っています。子どもたちの派遣費用の負担は県外や本島地域に比べても高額で、その負担の大きさがしばしば指摘されており、その課題について円卓会議を開催することになりました。2 日間にわたり本円卓会議は開催されます。

初日は、子どもたちの島外での活躍が地域にもたらす波及効果を論じながら、派遣される子どもたちへの支援のあり方を問い、2 日目は、竹富町や多良間村等のいわゆる「孫離島」における派遣費問題を論じます。

センターメンバー

喜納 正雄
株式会社ハブクリエイト
代表取締役社長

仲間 千加史
石垣市教育委員会
教育総務課 課長

中島 育美
平真小学校
ミニバスケットボール部
父母会 副会長

比嘉 小百理
八重山高校 郷土芸能部
顧問

下地 寛正
石垣市商工会
副会長

➢ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 休眠預金を活用した八重山・離島の子ども派遣基金事業で、2021 年度は、これまでに 5 件、計 183 万円の助成をしている
  - 基本的には、派遣旅費から石垣市教育委員会の補助を引いた個人負担の費用の半額を助成している
  - 野球、バスケ、文化技能、バレー、テニス、テクノラリー、郷土芸能の派遣に助成をした
  - 2020 年度は 5 件 103 万円ほどの助成をした。新型コロナウイルスの影響でオンライン開催になった大会があり予定より件数が減った
- 八重山・離島の子ども派遣基金事業で助成の前と後にとったアンケートの自由記述
  - 離島では、参加費の負担が大きい。本島との格差が是正されていないと感じる
  - チームスポーツで、遠征行く行かないでもめたが、補助により行くことができた
  - 台風で派遣のスケジュールが伸びて負担が増えることがある
  - 新型コロナウイルスの感染拡大による精神的負担もあった
  - 年間コストを考え、大会自体をしぼって参加しており、技術向上の機会が減っている
  - 兄弟が多いと負担が 2 倍、3 倍になる
  - 学校、石垣市以外の助成もあるとありがたい
  - 島内だと練習相手も限られ、練習試合の機会が少ない
- 石垣市内のある高校の例として、年間派遣人数 361 名、派遣費用総額 1,150 万円で、1 人あたりの平均派遣費用は 32,000 円、補助を引いた実質負担額は 21,000 円となっている
- 父母が資金造成で祭りに出店するなど苦労している
- 石垣市教育委員会総務課では、児童・生徒派遣費助成事業や、奨学金も助成している
- 石垣市では独自の奨学金制度が 3 種類ある
  - 石垣市で基金をためて、給付型 1 種類、貸付型 1 種類の奨学金を助成している
  - 島内出身者の寄付を原資にした給付型の奨学金が 1 種類ある
- 石垣市児童・生徒派遣費助成事業について
  - 2012 年度から一括交付金を活用することにより、派遣助成事業の予算を増額した
  - 2012 年度は、延べ 1,097 人に助成を行い、そこから派遣費助成事業が周知され、2014 年度には、延べ 4,000 人の助成を行なっている
  - 2019 年度がピークで、延べ 4,657 人に、総額 43,900,400 円の助成を行なっている
  - 2020 年度、2021 年度は、コロナの影響で、大会自体が中止になり、助成額は減っている
  - 飛行機片道分（沖縄県内上限 8,000 円・北海道、東北のぞく県外上限 21,000 円、北海道、東北は上限 31,000 円）を助成している
  - スポーツ系・文化系の種目を問わず、大会への派遣を対象としている。練習試合は対象外
  - 一括交付金事業が 10 年の事業で、今年度は、事業の拡大ができない状況にあった
  - 来年度以降のことは、まだ正式に決まっておらず、年度当初から使えるか心配している
  - 一括交付金を活用すると、10 年先どうするかという心配は常にある
  - 継続させるためのしくみをどうするか
- 離島では 9 割が、一括交付金原資として、部活派遣費補助をしている
  - 宮古・八重山地区の市町村会で、離島共通の課題として、毎年、県に対して、派遣費補助の要請をしている
- 昨年度、石垣市は、コロナ臨時交付金も活用し、部活派遣の往復の飛行機代（沖縄県内上限 16,000 円）を補助していた
- 沖縄県の派遣費補助もあり、県主催の中体連などの大会は、各体育連盟を通して補助している
- 八重山高校郷土芸能部は、1946 年創部で、2021 年度全国総合文化祭で優良賞を受賞、2021 度沖縄県高等学校総合文化祭で、優秀賞を受賞し、2022 年 8 月の全国大会派遣が決まっている
  - 2021 度全国大会の派遣費総額 7,031,640 円、一人あたり 167,420 円、石垣市補助 21,000 円、学校補助 63,920 円、ハブクリエイト補助 11,900 円を引いた 1 人あたりの最終負担額は、70,600 円となっている
  - 県大会も含め、2021 年度の派遣費は、1 人あたり 9 万円負担だった
  - 兄弟がいて 1 家庭 3 名派遣という家庭や、派遣費負担が大きく休部する家庭もあった

- 全国大会は、5 泊 6 日で、練習もあるため全員で宿泊できるという条件で宿泊施設を探し、1 泊 2 万円、宿泊費だけで 10 万円かかる
- 派遣から帰る直前で台風が発生し、ぎりぎりで帰ってこれたが、保護者から 1 泊でも伸ばすことは金銭的に厳しいという声があった

- 八重山高校郷土芸能部の保護者会としては、大会で勝ち抜いて、国立劇場まで行かせたいという気持ちと、行かずにホッとする気持ちがあり、苦しい
  - 最優秀賞をとって、国立劇場までの派遣がある場合、保護者としてはどう派遣費を工面するか
  - 生徒は自分たちが頑張れば国立劇場に行けると信じているが、お金の問題で行けない世帯がでたときの生徒たちの精神的な負担を考えると苦しい
- 平真小学校ミニバスケットボール部は、男女のチームがあり、学校のチーム（学校単位）で活動している
  - ミニバスは、夏と冬の大会があり、八重山 9 チームのうち上位 4 チームが県大会に行く。九州大会もあり、毎年、男子か女子かどちらか資金造成しないといけない
  - 6 年に 1 度、全国大会の参加がまわってくる。3 年に 1 度、男子か女子が全国大会に行く
  - コロナの影響で、昨年全国大会が中止となり、今年度、急に、広島の大会へ男子チームが行くことになった
  - 保護者は、県大会の負担は覚悟しているが、県外の全国大会への派遣となると親の思いもそれぞれ
  - 地区大会を勝ち進んだ場合、広島へ派遣となり、コロナの状況や、資金面でギリギリまで参加するか悩む家庭があった。ハブクリエイトからの補助なければ参加は無理だった
  - 広島派遣は、8 月に 5 泊 6 日で 1 人あたり 10 万円かかった。台風の影響で前泊した
  - 広島派遣は、子ども 11 名、指導者 4 名、引率父母 8 名で行った
- 子どもが野球部、カラーガード部で、父母会、野球部 OB 会に所属しており、常に資金造成している
  - 八重山高校カラーガード部は、全国大会の常連校で、郷土芸能部のように大人数で派遣にお金がかかる
  - この 2 年間は、コロナ禍で資金造成できず、寄付にたよっている父母会は多い
  - 保護者により温度差があり、資金造成できる父母、できない父母がいる
  - 八重山高校野球部は、GW の遠征資金を年末にガソリンスタンドなどでこどもたち自身も稼ぐ
- 社会福祉協議会と商工会などの 5 社で「募金百貨店プロジェクト」をしており、売り上げの 2%を赤い羽根募金へ寄付している。税制の控除メリットもある
  - 自分たちの商品を売りながら、寄付集めしやすい仕組みづくりをしていく必要がある
  - 島の取り組みに寄付することで、自分たちの商品を選んでもらう動機付けになる。面でみせて、1 つのブランドとしていく
- 子ども達が部活で島外に行くとき、島全体の雰囲気として、野球部、サッカー部は盛り上がる。種目によって異なる
- 離島のチームとして、どれだけ協力者を集めるかが重要で、いつもやっていかないといけない。種目によって、ノウハウの蓄積はある
- 派遣できない家庭に対し八重山高校野球部父母会で派遣費を出して大会にいった子どももいた。支え合うための父母会のお金であることや、助けあうことの合意ができている
- 八重山高校野球部は、年間で出る大会が大体決まっているので、4 月で年間集める金額を決める。300 万円くらい集めるが、9 割が派遣費になってしまう
- 男子、女子の父母会が一緒だと、男女にかかる費用の差が出るなどの問題がある
- これまでしていた資金造成が、コロナ禍でできなかった。一方で、ワクチンの接種会場の駐車場補導員など、コロナ禍でできたバイトがあった
- 試合が土日で終わる大会なのか、数日かかる大会なのか、種目によっても派遣費が大きく違ってくる
- チーム競技としては、行けない子がいると、なんのためにこのメンバーでやってきたのかという気持ちがある
- 手元から多額のお金がなくなることのストレスが大きい
  - 部活は＋αの活動で、生活が第一なので、あきらめることが出てくる

評価の提供

- 沖縄県のさらに離島ということで、以前から石垣市で派遣費を補助する事業は行なっているが、まだまだ足りていない
- 派遣費の補助が足りないというニーズは教育委員会にも届いているので、今回の民間で支える取り組みはよいこと
- ハブクリエイトの助成が、前もって助成頂けたのが保護者にとって助かった。助成額だけでなく、キャッシュフロー、タイミングが重要になってくる
- 石垣市からいただく固定の補助は家庭の安心につながる。沖縄県の連盟を通した補助などは、補助されている実感がうすくなってしまう
- 離島では、子どもの選択が担保されない。小中学校だと、小さい学校ではやりたい部活ができない。クラブ活動などでは、島内移動費の問題もある

視点の提供

- 派遣費の負担が軽減できれば、子どもたちが自由にスポーツできるようになるのではないか
- 部活に入った後の派遣費用は表に出てくるが、部活に入る前にあきらめることがある。強い部活ほど、親もできたら入るなオーラを出していると感じる
- 教育活動の格差是正が必要と感じている。行政は財源を確保し、制度を充実し、継続性が担保されることが重要
- 財源が多くあれば、どこの事業に充てた方がより多くの児童生徒に効果があるのか、優先順位も考えないといけない
- 派遣費への切実さは沖縄独特の問題である
- 県大会のときに、送迎バスがあるなど環境が整っている八重山派遣用の宿泊先があるとすごく助かる
- 部活の資金は、派遣費だけでなく活動費なので、備品の購入や設備費にもあてたい
- 離島で子どもが育たないとその地域がなくなるので、離島を守る観点で、国からのサポートがもっと必要ではないか
- 離島の子どもたちが夢を語れなくなると故郷がなくなる。同じ子どもなのに生まれたところで差がうまれるのはおかしい
- 離島格差について、市町村だけでなく、市民側からの声もあげていく必要がある
- 国、県が補償して、県内移動に対して航空運賃一律に取り組んで欲しい
- 全国の離島の共通の課題として、部活派遣の不利性を訴え、問いかける必要がある
- 民間としても、クラウドファンディングなど新しいやり方を通して訴える必要がある
- 大会に行けない子がいると、まわりの子にも影響がある
- 家庭の事情、コロナへの考え方の違いがある。行けない子はつらそうにしていた
- スピード感がある補助が必要
- 郷土芸能部は、地域性の高い部活動として活動していて、郷土芸能部を見て、石垣にファンになり観光に来る方もいる
- 石垣のブランドを売るに、生徒も一役かっていて、貢献もしている
- 部活派遣のキャッシュフローの問題について、アイディアとして、銀行が間に入ってつなぐことはできないのか
- 離島割引が拡充されるとみんなに恩恵がある
- 機会の平等として、全国大会に行くと、礼儀やあいさつなど、部活へ取り組む姿勢も変わる。島のハンディを乗り越えて機会の提供ができないか

➢ 今後のアプローチの方向性（提案）

1） 離島に暮らす子どもたちの移動を制限してしまうことは体験保障の大きな障害であり、教育格差の象徴とも言える。本当にここで子どもを育て続けられるのかという問いかけを。まずは全離島市町村に横串を刺したさらなる旅費負担軽減の施策を提案すべき。少なくとも那覇市の子どもたちの負担と比較しながら具体的な是正プランを立て、県や国に呼びかけたい。

2） 人口の少ない離島においては、旅行自体の手配（移動・食事・宿泊・練習場所等）も大きな負担となる。さらに、派遣前の支出も多くその立替費用等があきらめの原因となっている。これらの周辺課題の負担軽減と担い手の担保が必要。

3） 観光業中心の離島地域は、土日休日の帯同が困難な場合が多い、何らかの方法で応援できる仕組みも検討事項である。

4） これらに必要な財源をすべて行政で賄うことが難しい場合、ふるさと納税等の外部資源の活用もしっかり検討し、特定財源化を目指したモデル事業を検討したい。

■参加者によるサブセッション

島の子どもたちの活躍が地域を元気にする。
派遣費に関わる課題をみんなで考える。

（参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載）

①

募金
派遣費補助
固定補助＝安定
県の補助≠各家庭補助

②

・長崎有人離島
子ども達
・竹富 15 の春
・A さん、3 つの仕事かけ持ち、派遣費負担小
中野球クラブ　タオル
・B さん、マクドカード
ハウスクリーニングのバイト
収入 300 万頑張って→9 割派遣費に…
本当は備品購入に使いたいが…
・子どもと過ごした時間、大変だけど楽しかった
・「離島の不利性」国として　国益にもつながる
cf、対馬も韓国の資本も
↳不利と感じさせたら、出てしまう
国としても、子どもにお金をかけない国
↳地域に子どものいない国は
↳離島を守るためにという観点
・経済的な不利性、利益
・輸送費は下がらない、前泊の必要性
更に孫離島の場合は…
コロナで、オンライン学習などできるようになったが…

③

・父母会が男女一緒
・資金助成→バイトありがたい（PCR 駐車場）
・獲得、コーチの旅費を出す
・12 才
・バレー　土日で試合終わる　土曜日で終わった場合、練習試合を入れる
・バスケ 1 日 2 試合　130 チーム　参加多い
・宿泊先、八重山会館みたいなのを作ろう？…
・バスケ　毎年本土に行くためにどこかのチームが資金助成している
・本土はクラブ、強い子と試合が出来る　沖縄は学校のチーム

【1 日目】部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 in 八重山
参加者アンケート集計

◆概要

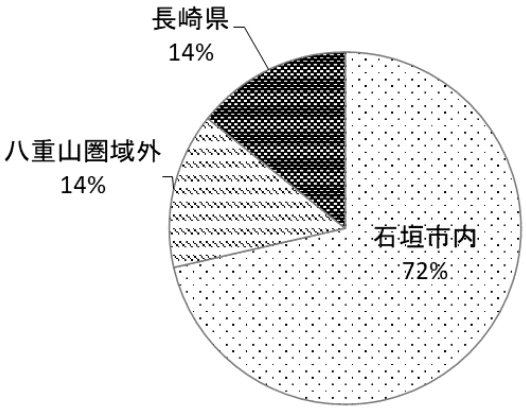
・日時：2021 年 12 月 14 日（火）18:30-21:10

・場所：大濱信泉記念館研修室

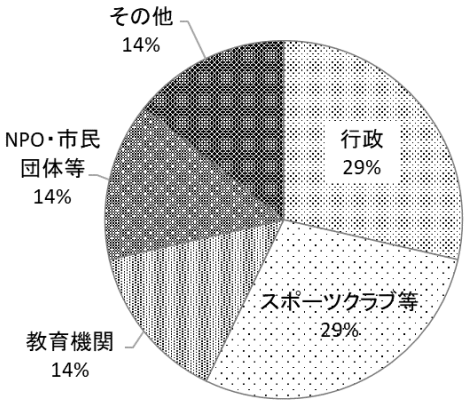
・着席者：7 名（論点提供者、司会、記録者含む）

・参加者：7 名（アンケート回収 7 名、回収率 100%）

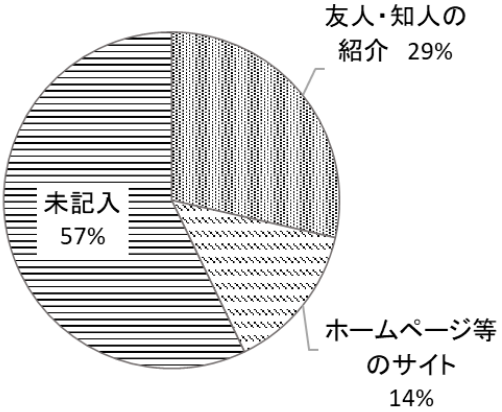
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：4.2（5 点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
6 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名

５．満足度の理由

（５．満足）

・ 参加しないとわからない大切な問題があると気づきました。

・ 行政の方の話もきけ、他の部活の現状もしれました。アイディアが浮かんだような気がします。（クラウドファンディングもあり）

・ 元々ある資料で学ぶ会議ではなく、意見を出し合い問題現場を認識し合う非常に有意義な場だった。次に取り組みたいことがたくさん思いつくことができた。

・ 円卓会議の進め方や、課題提供をする事で、みなさんが日頃思っている課題が出てくる事で、見えてくるものがあった。

６．円卓会議で印象に残ったこと

・ 問題を逆に学校のアピールとしていくこと。行政のスピード感

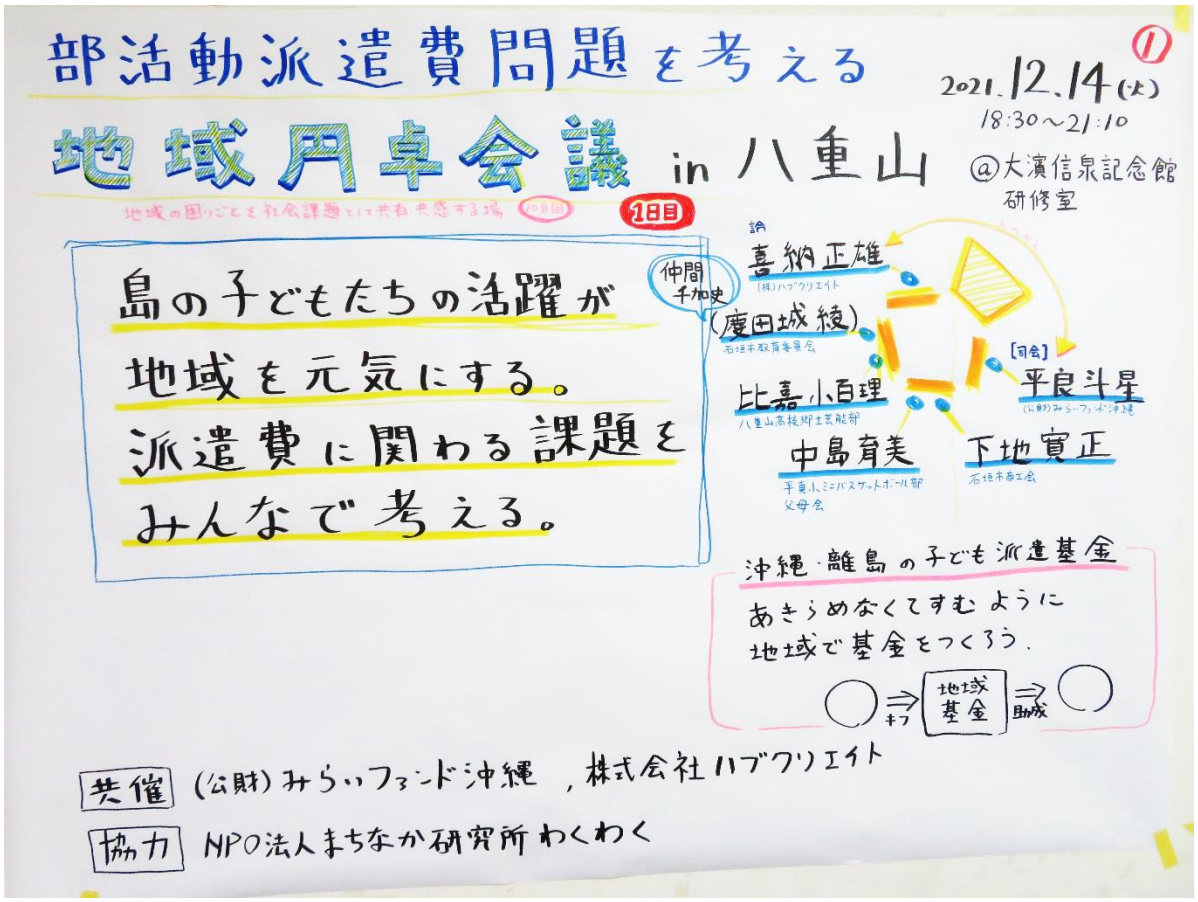
・ 募金百貨店プロジェクト

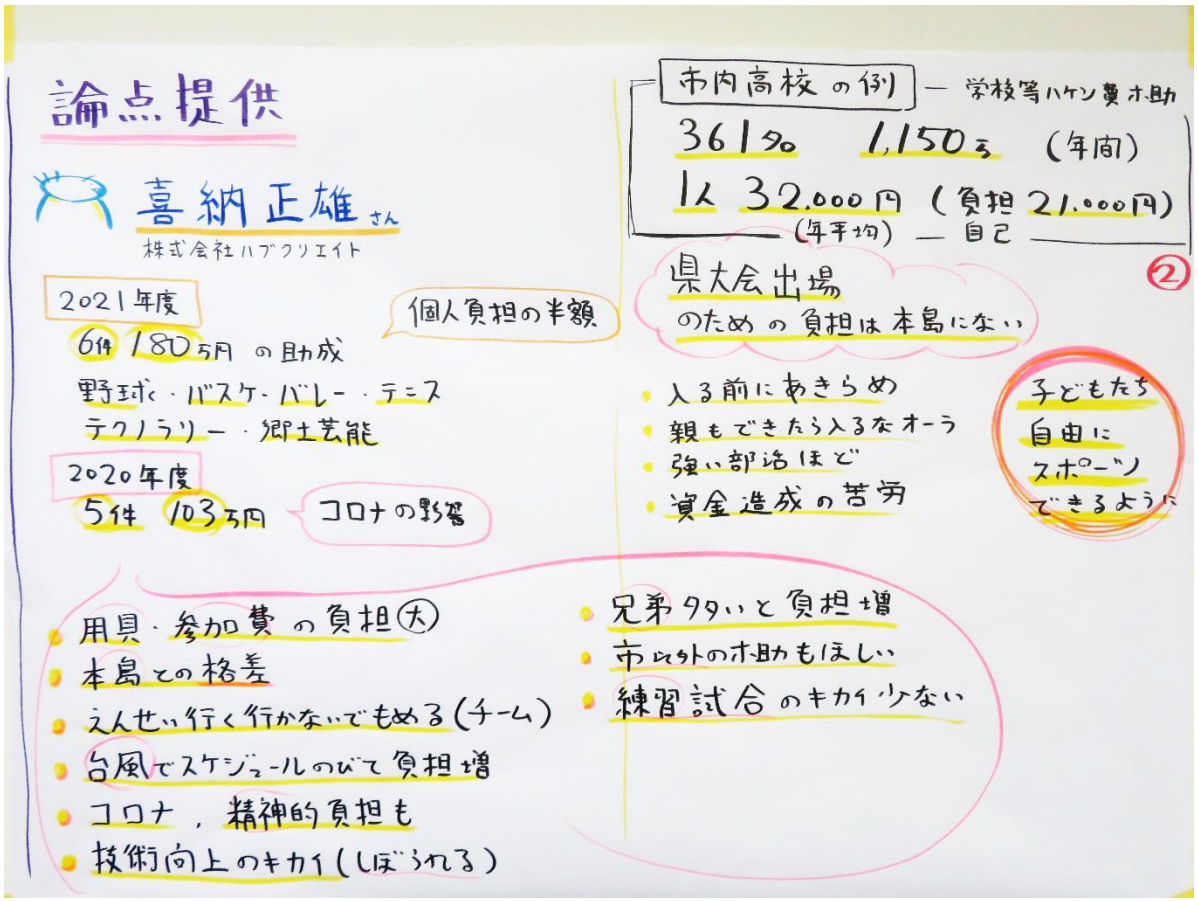
・ 島内やつながりの場で寄附を募るだけではなく、島（県）外にこの現状を発信していくことでベース（考え方）を一定にできることにつながるというアイディア。

・ 子供達が地域の広告塔である事、気付いていなかった点

（写真）会場の様子

＜板書記録＞


部活動派遣費問題を考える
地域円卓会議 in 八重山
①
2021.12.14(土)
18:30～21:10
@大濱信泉記念館 研修室
地域の困りごとを社会課題として共有・共感する場
1日目
島の子どもたちの活躍が
地域を元気にする。
派遣費に関わる課題を
みんなで考える。
仲間千加史
論
喜納正雄
(株)ハブクリエイト
(慶田城綾)
石垣市教育委員会
比嘉小百理
八重山高校郷土芸能部
中島育美
平良小ミニバスケットボール部 父母会
[司会]
平良斗星
(公財)みらいファンド沖縄
下地寛正
石垣市商工会
沖縄・離島の子ども派遣基金
あきらめなくてすむように
地域で基金をつくろう。
地域基金
キフ
助成
共催 (公財)みらいファンド沖縄，株式会社ハブクリエイト
協力 NPO法人まちなか研究所わくわく


論点提供
喜納正雄さん
株式会社ハブクリエイト
2021年度
6件 180万円 の助成
野球・バスケ・バレー・テニス
テクノラリー・郷土芸能
2020年度
5件 103万円
コロナの影響
個人負担の半額
市内高校の例 — 学校等ハケン費・補助
361名 1,150万 (年間)
1人 32,000円 (負担 21,000円)
(年平均) — 自己
②
県大会出場
のための負担は本島にない
入る前にあきらめ
親もできたら入るなオーラ
強い部活ほど
資金造成の苦労
子どもたち
自由に
スポーツ
できるように
用具・参加費の負担大
本島との格差
えんせい行く行かないでもめる(チーム)
台風でスケジュールのびて負担増
コロナ，精神的負担も
技術向上のキカイ(しぼられる)
兄弟多いと負担増
市以外の補助もほしい
練習試合のキカイ少ない

仲間千加史さん
石垣市教育委員会

児童・生徒派遣費助成事業

しょう学金　　基金

給付型・貸付型

キフから

まだまだ足りていない

H24～ 一括交付金を活用 → 増額できた

現在

H29 1097人

R1 4,657人　43,800,400円

- 飛行機片道分の半額（上限8000円）
- 一括交付金 10年 ← 来年度以降のこと まだ正式に決っていない
- コロナ臨時交付金も活用（昨年度）
- スポーツ・文化系問わず
- 練習試合は対象外

年度当初から使えるか心配

10年先どうするか、という心配は常にある

継続させるためのしくみどうするか

- 県は体育連盟を通して補助している（中体連など）

R3年度 9万円負担

比嘉小百理さん ③
八重山高校郷土芸能部

1964年創部

R.3 全国総合文化祭

7,031,640円

ひとりあたり 167,420

市補助 21,000

学校補助 63,920

ハブクリエイト (500,000) 11,400

1家庭3名という家庭も

負担によって休部の子も

最終負担 ¥70,600

2本

- 財源の優先順位も考えないといけない
- 教育活動の格差是正必要
- 継続性

今回の民間で支えるとりくみよいこと

- 台風の影響ヒヤヒヤだった
- 前もって助成いただけたのが助かった（キャッシュフロー）タイミング
- 行かせたいという気持ちと、ホッとする気持ちが苦しい
- 全国まで、国立まで、どうするか
- 次年度、どう工面するか
- お金の問題で行けない世帯がでたときの生徒たちの精神的な負担も

中島育美さん ④
平良小学校ミニバスケット部父母会

ミニバス → 男女ある / 学校のチーム所属

広島の大会へ → 八重山の男子行くことに

学校所属のチーム（学校単位の活動）

県大会の負担はかくごしている

県外大会への派遣となると親の思いもそれぞれ

八重山9チームのうち4チーム

毎年、男子か女子どちらか資金造成しないといけない

広島への派遣

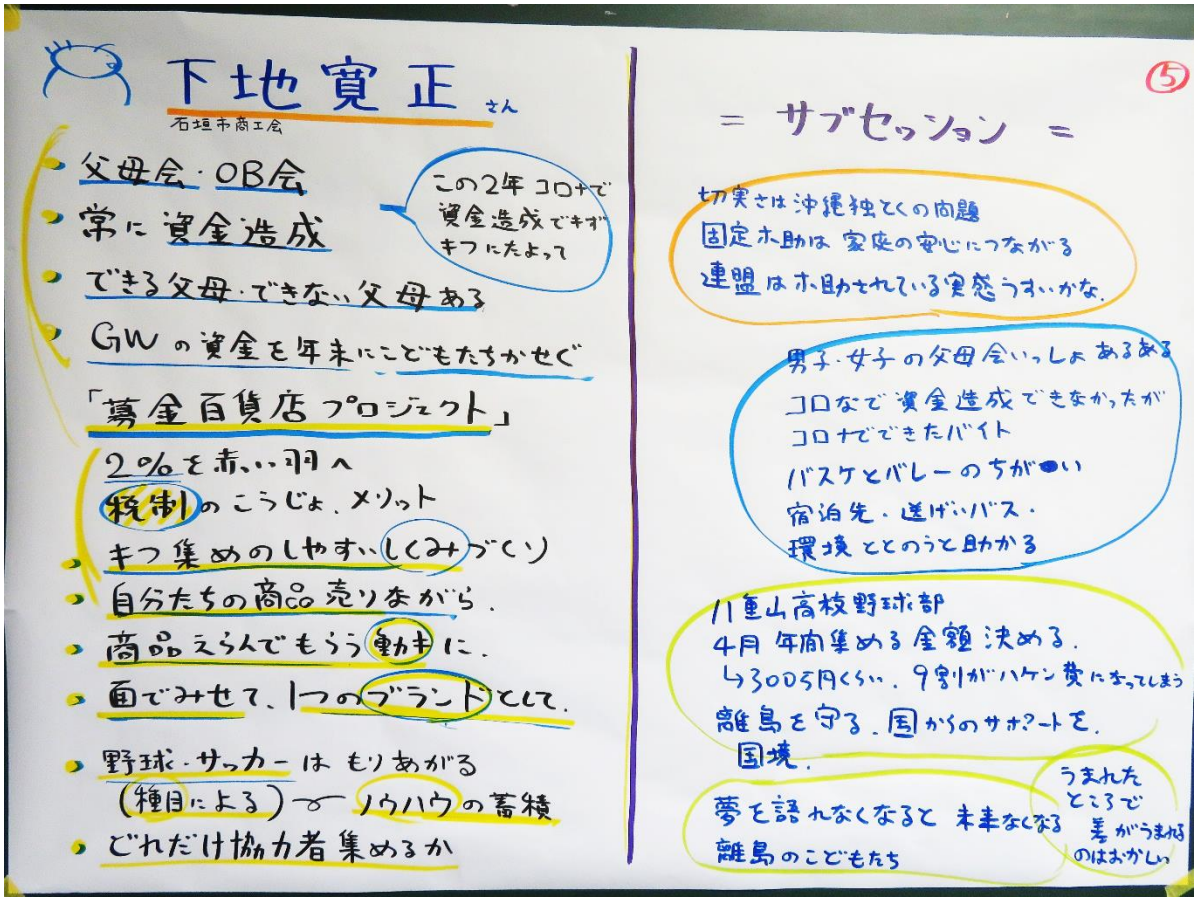
ギリギリまでどうなるかわからなかった。

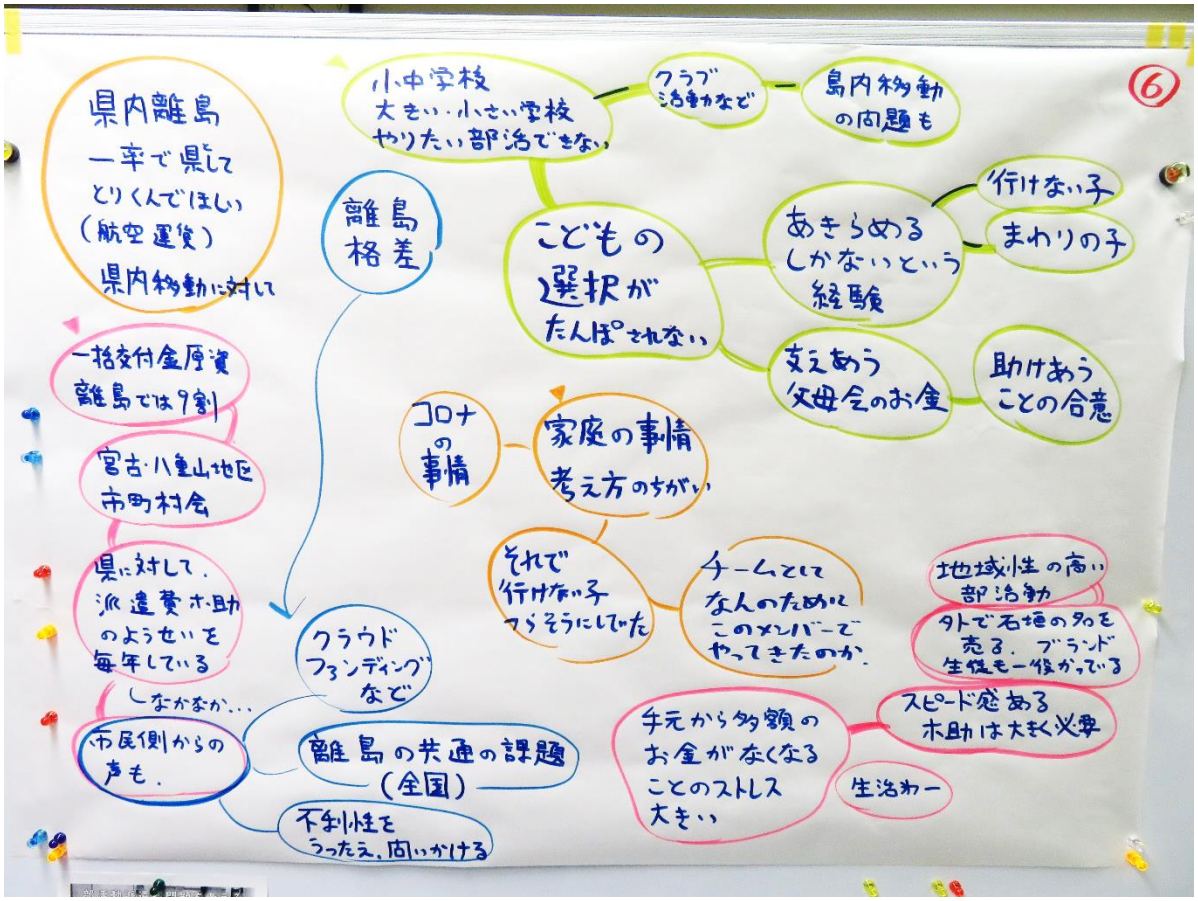
ハブクリエイトからの補助なければムリだった

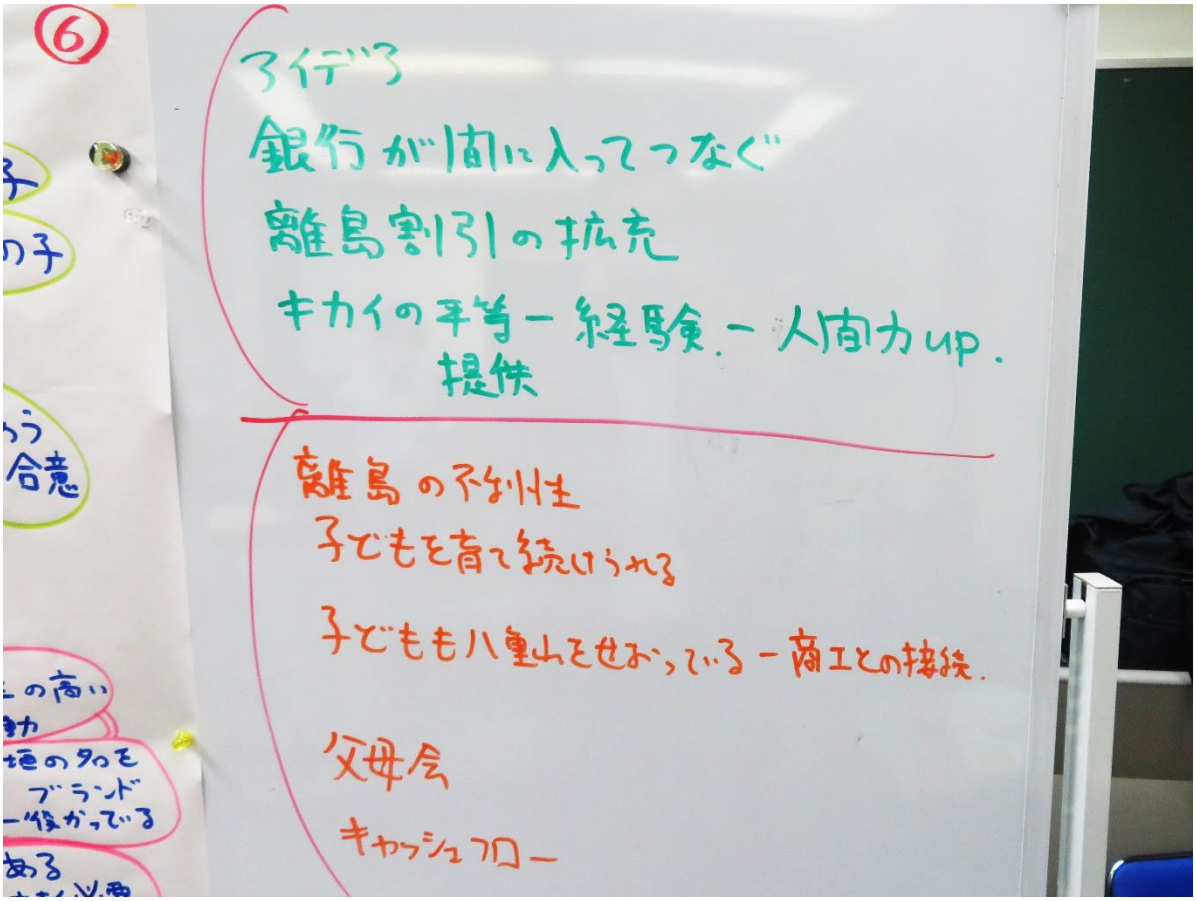
8月 5泊6日

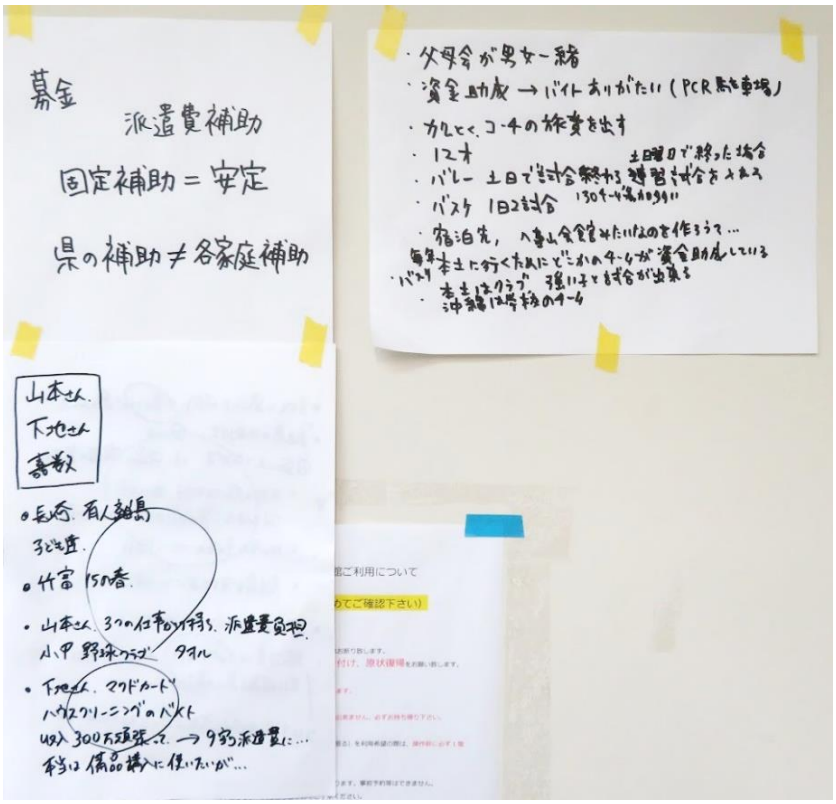
10万円/ひとりあたり

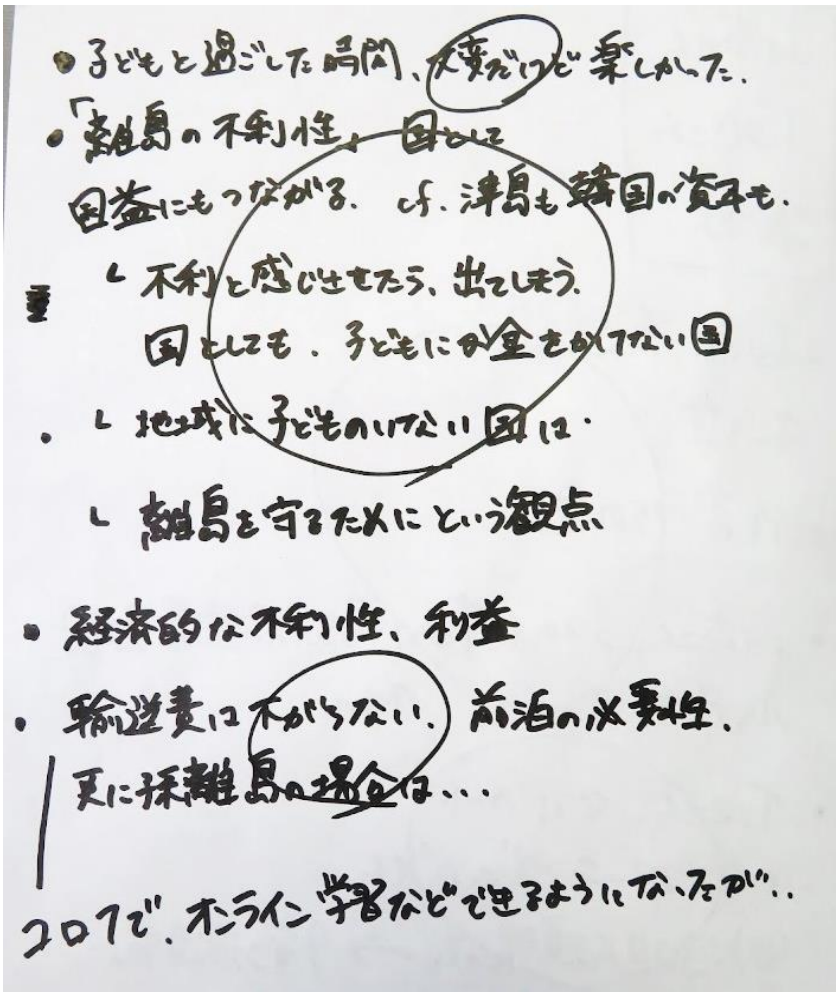
~~5名~~ 11名（こども）4名（おとな）引率父母8名 補助対象


下地寛正さん
石垣市商工会
父母会・OB会
常に資金造成
この2年コロナで資金造成できず キフにたよって
できる父母・できない父母ある
GWの資金を年末にこどもたちかせぐ
「募金百貨店プロジェクト」
2%を赤い羽へ
税制のこうじょ、メリット
キフ集めのしやすいしくみづくり
自分たちの商品売りながら。
商品えらんでもらう動きに。
面でみせて、1つのブランドとして。
野球・サッカーはもりあがる
(種目による)→ノウハウの蓄積
どれだけ協力者集めるか
⑤
= サブセッション =
切実さは沖縄独とくの問題
固定ホ助は家庭の安心につながる
連盟はホ助されている実感うすいかな。
男子・女子の父母会いっしょあるある
コロナで資金造成できなかったが
コロナでできたバイト
バスケとバレーのちがい
宿泊先・送げいバス・
環境ととのうと助かる
八重山高校野球部
4月年間集める金額決める。
↳3005円くらい。9割がハケン費になってしまう
離島を守る。国からのサポートを。
国境。
夢を語れなくなると未来なくなる
離島のこどもたち
うまれたところで差がうまれるのはおかしい


⑥
県内離島
一率で県として
とりくんでほしい
(航空運賃)
県内移動に対して
小中学校
大きい・小さい学校
やりたい部活できない
クラブ活動など
島内移動の問題も
離島格差
こどもの選択がたんぽされない
あきらめるしかないという経験
行けない子
まわりの子
支えあう父母会のお金
助けあうことの合意
一括交付金原資
離島では9割
宮古・八重山地区
市町村会
県に対して、派遣費ホ助のようせいを毎年している
しなかなか…
市民側からの声も。
コロナの事情
家庭の事情
考え方のちがい
それで行けない子つらそうにしてた
チームとしてなんのためにこのメンバーでやってきたのか。
地域性の高い部活動
外で石垣の名を売る。ブランド生徒も一緒がってる
クラウドファンディングなど
離島の共通の課題(全国)
不利性をうったえ、向いかける
手元から多額のお金がなくなることのストレス大きい
スピード感ある ホ助は大きく必要
生活ボー


⑥
アイデア
銀行が間に入ってつなぐ
離島割引の拡充
キカイの平等ー経験ー人間力up.
提供
離島の不利性
子どもを育て続けられる
子どももハ重山を担おっている－商工との接続.
父母会
キャッシュフローブランド


募金
派遣費補助
固定補助＝安定
県の補助≠各家庭補助
父母会が男女一緒
資金助成 → バイトありがたい（PCR駐車場）
カルとく、コ・チの旅費を出す
12才
バレー 土日で試合終わる
土日曜日で終った場合
練習試合もある
バスケ 1日2試合
130チーム強がある
宿泊先，八重山会館みたいなのを作ろうぞ…
毎年本土に行くために どこかのチームが資金助成している
バスケ 本土はクラブ 孫に子と試合が出来る
沖縄は学校のチーム
山本さん
下地さん
喜数
長浜 有人離島
子ども減
竹富 150名
山本さん 3つの仕事の掛持ち 派遣費負担
小中 野球クラブ タオル
下地さん マクドナルド
ハウスクリーニングのバイト
収入 300万頑張って → 9万派遣費に…
残りは備品購入に使いたいが…


子どもと過ごした時間、大変だけど楽しかった。
「離島の不利性」国として
国益にもつながる。cf. 津島も韓国の資本も。
不利と感じさせたくない、出てしまう。
国としても、子どもにお金をかけない国
地域に子どものいない国は。
離島を守るためにという観点
経済的な不利性、利益
輸送費は下がらない。前泊の必要性。
更に孫離島の場合は…
コロナで、オンライン学習などで出来るようになったが…